

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	26年度
事業名	資源リサイクル推進事業	担当課	環境課
細分化した事業名			

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	心地よい定住環境のあるまちづくり	
	政策	自然を活かし、自然にやさしいまちづくりの推進	
	施策	資源循環型社会の構築	
関連する個別計画等	一般廃棄物処理実施計画・環境基本計画	根拠条例等	

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	「容器包装リサイクル法に係る分別収集計画及び再商品化の促進等に関する法律」等に基づき、一般家庭から排出される資源ごみを分別収集し、資源を再原料・再商品化する。また資源ごみとして収集することで、生活系一般ごみの減量化を図る。
事業の手段	<p>○市内にステーション106カ所・拠点3カ所を設け、業者との委託契約により実施する。</p> <p>・資源物回収委託（収集物：ダンボール、新聞、雑誌、チラシ、牛乳パック、その他雑紙、ビン（透明・茶・その他）、飲用缶、ペットボトル、白色トレイ）</p> <p>① ステーション回収（1回/回収日は地区による）・地区管理及び指導</p> <p>② 拠点回収 3カ所（フジモール・竜岡公民館は毎月第2・4土曜日、市役所裏は毎週土曜日）（委託により搬入指導業務）</p> <p>収集された資源ごみは、委託業者により再原料化され、さらに再商品化業者によって商品化される。</p>
事業の対象	<p>一般家庭から排出される資源ごみ。</p> <p>「容器包装リサイクル法」によるもの、ビン類・缶類・ペットボトル・白色トレイ・ダンボール・牛乳パック・その他の紙製容器包装</p> <p>「容器包装リサイクル法」以外のもの、新聞紙・雑誌・チラシ・雑紙</p>

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		23年度	24年度	25年度
A	事業費 (千円)	16,461	16,374	16,259
財源内訳	国・県支出金			
	その他(使用料・借入金ほか)	3,406	2,363	1,767
	一般財源	13,055	14,011	14,492
B	担当職員数(職員E) (人)	0.67	0.67	0.67
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	4,568	4,480	4,349
D	総事業費(A+C) (千円)	21,029	20,854	20,608
主な事業費用の説明	主な事業費は各地区、拠点などの資源ごみ収集場所から再生・処理施設まで運ぶ収集運搬業務委託料。			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、23年度(6,819千円)、24年度(6,687千円)、25年度(6,491千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			23年度	24年度	25年度
活動指標	1 収集回数(各地区) // (拠点)	各地区106箇所×毎月1回 拠点 第2・4土曜日3箇所 上記以外土曜日1箇所	1,272 100	1,272 99	1,272 91
	2				
	3				
妥当性		<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない			
上記活動指標と妥当性の説明	1	<p>各地区収集については、衛生指導員・区役員を中心に分別指導や収集所の清掃などを行い適正に運営されている。拠点収集についても、委託した指導員が分別指導にあたり適正に運営されている。ただし、拠点収集場所の市役所庁舎裏以外の2箇所は雨天の場合、屋根等の設備がない場所なので収集を中止にせざるを得ない現状である。排出の機会を増やすため、他市にもあるような24時間ステーションの設置を検討したが、費用面や適地が無いため見送った。</p> <p>また、25年度は台風や大雪の影響があり、拠点収集を中止した日があったため収集回数が減ってしまった。</p>			
	2				

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			23年度	24年度	25年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	資源ごみ収集量 (うち、拠点分)	単位: t	1,040.12 (301.34)	978.70 (290.92)	924.81 (274.31)
	〔収集品目〕 ・ミックス紙 ・びん類 ・白色トレイ ・ペットボトル ・新聞紙 ・雑誌 ・ダンボール ・牛乳パック ・缶類		38.53 60.14 1.57 21.11 488.53 249.02 158.86 3.71 18.65	38.89 57.77 1.50 20.42 460.26 218.33 161.56 2.95 17.02	37.57 56.42 1.28 19.86 428.85 196.76 164.61 3.16 16.30
	2 生活系ごみ収集量	単位: t	6,305	6,193	6,163
	3 リサイクル率(%) (まちづくり指標は平成 30年度目標値20%)	資源ごみ収集量/生活系ごみ収 集量+資源ごみ収集量	14.2	13.7	13.1
4 1人当たりの年間資源ご み排出量(kg)	資源ごみ収集量/年度末人口 924,810kg/31,342人	32.51	30.89	29.50	

成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている	<input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている	<input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない
上記指標の妥当性と成 果の内容説明	1	資源ごみ収集量はダンボール以外の品目において年々減少傾向にある。現在、地区・拠点回収以外にスーパーでも白色トレイなど自主収集を行っており、また、いまだ可燃ごみとして排出されている可能性が高く、なかなか収集量が増えない。		
	2	資源ごみを除く生活系可燃・不燃ごみの収集量は年々減少傾向にあるが、これは、人口減や景気変動によるものと思われ、資源ごみの収集量が上がってない現状から、資源化が進んだためとは言えない。		
	3	1年間のごみの総排出量に対し、資源化した量の割合であるが、年々下がっている。生活系可燃・不燃ごみなどごみ自体が減ってきているのは良いが、資源ごみの収集量も減ってしまっているのでもリサイクル率は下がってきている。		
	4	1人当たりの年間排出量は年々減少している。手間がかかっても、資源ごみは分別して決められた日、決められた場所に排出してもらうよう広報などで周知徹底を呼びかける。		

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成	<input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成	<input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	------------------------------------	-------------------------------------	---

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか) 26年度の改善計画(今後の事業展開説明) 26年度から家庭用廃食油の収集を新たに始めた。また、外国人向けごみ分別マニュアルを作成し、市内事業所などを通じ、配布をおこないごみの分別の徹底を図る。リサイクル意識向上のため、早い時期からの環境学習が重要であると考え、保育園児やその保護者を対象に学習会を開催する。
過去の改善経過	平成4年度から紙類(新聞・チラシ・雑誌・牛乳パック)収集開始。平成10年度から、ビン類・ペットボトル追加、平成12年度から、缶類・ダンボール・雑紙・白色トレイ収集開始。 平成23年度に排出の機会を増やすべく、市役所庁舎裏拠点収集を第2・4土曜日から毎週土曜日に変更。
課長所見	資源ごみの回収は、市民と行政そして事業者との協働と連携で成立しており、品目や収集方法の啓発と検討に継続しての取り組みが求められる。